

聖書：ルカ 24：44～49

説教題：あらゆる国の人々に

日時：2013年4月21日

イエス様が復活後、使徒たちに初めてご自身を現わしたのが、前回 36～43 節の場面でした。弟子たちにとって、それは何という喜びの時だったでしょう。十字架上で死んでもう会うことができないと思っていた愛するイエス様が、自分たちの目の前に立っている！嬉しさのあまり、信じられない状態になっていた彼らの前で、イエス様は魚を食べて見せました。その姿を見て弟子たちは、本当に主はよみがえったのだ！と確信します。

しかしイースターはこれで終わりなのではありません。イエス様は彼らとの再会を喜ぶためにだけ彼らのところに来られたのではなく、大切なメッセージを語るためにも彼らのところに来られました。復活後に主はどんなメッセージに語られたのか、私たちは耳を傾けたいと思います。

まずイエス様がしていることは聖書講解です。エマオ途上の二人の弟子に対してしたことと同じです。25～27 節でイエス様は、「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」と言って、「モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。」とありました。今日の箇所も同じです。44 節に「モーセの律法と預言者と詩篇」と出て来ますが、これはユダヤ人の旧約聖書の区分に則った言い方です。その旧約聖書がイエス様について語っていることはみな成就しなければならない。ここに暗示されていることは、聖書の中心主題はイエス・キリストであるということです。ですから私たちは聖書の色々な細かい点が分かったつもりでも、そこからキリストのことを学ぶのでなければ、正しく聖書を学んだことにはならないのです。旧約聖書を良く知るとは、キリストを良く知ることであり、反対にキリストを良く知りたければ、旧約聖書を良く知る必要があるということになるのです。

しかし聖書はただ人間の知恵によって理解し、悟ることができるものではありません。45 節に「そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて」とあります。私たちはみな体験しているでしょう。それまで何度も見たり聞いたりしたことのある御言葉が、ある時、突然、スーッと自分の心の中に入って来る。そしてその御言葉が示すあまりにも大きな世界に圧倒される。自分は今まで一体何を読んでいたのだろうか、なぜこの事に気がつかなかったのだろうか、と思わされる。聖書は神の言葉であり、それ自体には何の欠陥ありませんが、私たちの心が固く閉じていると、真のメッセージが分からないのです。ですから私たちはただ自分の知恵と能力で、聖書を理解してやろうとするのではなく、主が私の心を開いてくださるように、そしてそこにある真理を悟らせてくださるように、そしてそれが真理なら喜んで受け入れ、従う者となるように、と上からの恵みを求めながら聖書に聞いて行く必要があります。イエス様はこうして彼らの心を開き、3つのメッセージをイースターの日に語ってくださいまし

た。

まず第一にイエス様が聖書を通して示したことは、「キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえる」ということです。イエス様はこれまでもこのことを語って来ました。9章22節：「人の子は、必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみがえらねばならないのです。」 またエマオ途上の二人に対しても26節で、聖書には「キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入る」ことが書いてあったはずではないか、と言われました。そのことを使徒たちにももう一度確認されたのです。彼らはこうして改めて理解するように導かれました。すなわちイエス様の十字架は決してハプニングではなかった、ということ。それは単なる偶然とか、事の成り行き上、そうってしまったものではないということ。それは聖書に前から預言されていたことであり、神のご計画に基づく出来事であった。三日目の復活もそうです。弟子たちにとってそれは信じられないような、あまりにも素晴らしい出来事でしたが、これもずっと聖書の中で語られ、予告されて来たことでした。聖書がキリストについて語っていたことはこのように成就したのです。

しかし弟子たちはただこのことを理解し、喜んでいけば良いものではありません。聖書が書いていることはまだ他にもあります。イエス様のメッセージの二つ目の点になりますが、それは47節にありますように「その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが宣べ伝えられる」ということです。「その名によって」という言葉から分かることは、46節のイエス様の十字架と復活は、それ自体が目的なのではないということです。イエス様の十字架と復活は、「その名による」罪の赦しを人々に与えるためのものです。本来私たちは自分の罪のために、この世で一度死ぬことの他に、死後にさばきを受け、罪人にふさわしい報いを受けなければならない者たちでした。しかしそんな私たちに「罪の赦し」の恵みを与えるために、イエス様が十字架上で死んでくださったのです。そしてイエス様はその死によって私たちの身代わりを完全に果たしてくださったので、またその明白な証拠として死よりよみがえられたので、その名によって（すなわちこの方のしたことに基づいて）罪の赦しの人々に提供されるようになったのです。

しかしこれにあずかるには条件があります。それは悔い改めの道を通ることです。悔改めとは今まで神に背を向けて歩いて来た自分の誤りを認め、神の方に向き直って、神と共に歩む歩みに進むことです。本来私たちにはこうする道がありませんでした。しかしイエス様の十字架と復活のみわざに基づいて、神はご自身に立ち返る者を豊かにあわれみ、受け入れてくださいます。イザヤ44章22節：「わたしは、あなたのそむきの罪を雲のように、あなたの罪をかすみのようにぬぐい去った。わたしに帰れ。わたしは、あなたを贖ったからだ。」 私たちはこうして神に立ち帰る悔い改めに進むことができます。そしてその悔改めを通して、神は罪の赦しを私たちに得させてくださるのです。そして私たちは神との回復された正しい関係の中で、神の光と祝福の中を歩む生活へと進むことができるのです。

この素晴らしい悔い改めの福音が、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる、とあります。このことも聖書に書かれていることとしてイエス様は語っておられます。全世界への福音宣教は、最初から神の計画の中にあつたことです。創世記 12 章 3 節：「地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」ここにイスラエルの選びは全世界に対する神の祝福の計画に仕えるためのものであつたことが示されています。イザヤ書 49 章 6 節：「主は仰せられる。『ただ、あなたがわたしのしもべとなつて、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。』」イエス様の十字架と復活のみわざはすでに成し遂げられましたが、まだこれは神の計画の半分に過ぎません。大きな一つの出来事が成就して、いよいよこれからは全世界への福音宣教という大きな二つ目の段階に移る時が来たのです。それがどのように始まつたかということが、この福音書の続編とも言うべき「使徒の働き」に記されて行くこととなります。

そしてイエス様が語られた 3 つ目のメッセージは、48 節の「あなたがたは、これらのことの証人です。」ということです。すなわち全世界の人々に宣教するという神の事業計画の第二段階において、神は弟子たちを特に用いるということです。この時、イエス様の前に立っていた人たちはどうしようもない人たちでした。イエス様にどこまでもついて行きますと約束しながら、イエス様が捕まると簡単にイエス様を見捨てて逃げた人たちでした。普通なら、どうしてこんな人たちを世界大の神のご計画のために用いるのでしょうか。しかしイエス様はそんな彼らのところを訪れて、「あなたがたが証人です」と言われたのです。

この言葉を考える際、合わせて心に留めたいことが二つあります。一つは 47 節の最後が「あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」となっていることです。「宣べ伝えなさい」と言われているわけではありません。聖書が「あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」と語っている。第一段階のイエス様の十字架と復活が聖書の語る通り成就したように、この第二段階のことも、神の主権によって確実に成就することです。神はそのために、先に救われた弟子たち、そして私たちを用いるのです。私たちは、この神の主権と約束を信じて、この使命に当たって行くべきです。

もう一つは 49 節で聖霊を与えられることが約束されていることです。これは後のペンテコステの日に実現します。イエス様は天に昇り、そこから聖霊を遣わして、ご自身が勝ち取った恵みを分配してくださいます。イエス様は私たちの救いを勝ち取ったばかりか、宣教の歩みのための力も注いでくださるのです。私たちは自分の人間的な力を見つめるのではなく、イエス様が注いでくださる聖霊の力と恵みにより頼んで、「あらゆる国の人々に悔い改めの福音を伝える」という使命に邁進できるのです。

このルカの福音書を朝拝では 2010 年 11 月から約 2 年半かけて読んで来ました。来週が最終回となります。私たちはまさにこの福音書を通してイエス様の十字架と復活の出来事を見て来ました。しかし私たちはこれで終わりとしてはならないのです。これはまだ聖書が語って来た神の計画の半分です。これに続いて罪の赦しを得させる悔い改めが、あらゆる国の人々に宣べ伝えられるという神の事業計画が実行されて行かなければならないのです。

「あらゆる国の人々に」と聞いて、ある人はまだ福音が伝えられていない遠い地域に出かけて行くように主に導かれるかもしれません。もちろんそれは素晴らしいことです。しかしイエス・キリストによる救いを知らないで生活している人は私たちの周りにたくさんいます。罪の赦しを得させる悔い改めの恵みを自分のものとして受け取っていない人が私たちの近くにたくさんいます。そのそばにいる一人一人に宣べ伝えるという使命に私たちそれぞれが取り組んでこそ、この神の御心は実現して行きます。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえるというみわざは、聖書が示す通りに成し遂げられました。このイエス様のみわざに基づいて、これからは罪の赦しを得させる悔い改めがエルサレムから始まり、あらゆる国の人々に宣べ伝えられるという神のご計画が実現されて行かなければなりません。私たちは神がこの壮大な御心をもって、イエス様の十字架と復活の歩みを導いてくださったことを感謝し、あらゆる機会を見つけて罪の赦しを得させる福音を宣べ伝える歩みに自らをささげたいと思います。そのことをもってキリストにある救いを頂いたことへの感謝を現わし、またやがての神の御心が完全に成就する日・栄光の日を喜び待ち望む歩みへ進みたいと思います。